

Growth Sports Academy

「ボールパーク体験会」第1回活動レポート

～65名の子どもたちとリーチ マイケル選手が夢の島で球技体験～



2024年6月1日(土)午後、株式会社Growth Sports Academy(以下、GSA)は複数の球技に触れて自活する人づくりを目指す取り組み「Ball Park PJ」の記念すべき再始動第1回となる「ボールパーク体験会」を開催しました。東京・夢の島公園アーチェリー場には幼児27名と小学生38名、その保護者のみなさんが集まり、ラグビー、フットサル、ハンドボールの3競技を体験。晴天のもと、子どもも大人も笑顔あふれる3時間を元気に過ごしました。

今回の開催の中心的役割を果たしたのは指導者、解説者として活動中のラグビー元日本代表の斉藤祐也(株式会社コーディネーション・アカデミー代表取締役)で、「スポーツを通じて『楽しみながら』人間性・社会性を学ぶ」こと、そして子どもたちにとっての家庭、学校に続く「サードプレイス(第3の場所)」創りをミッションとして掲げています。

今回はラグビーのセッションを斉藤祐也、フットサルを岡村康平、ハンドボールを横地康介と各競技のプロ経験者がそれぞれ担当し、専門的な技術の習得や上達よりも①チームワーク、②コミュニケーション、③友達作りをテーマに掲げて熱心に指導。ラグビーはボールが空中にある間だけ動いていい「だるまさんが転んだ」に似た要素のある遊びやディフェンダーのタッチをかわしながらのボールキャリアー、フットサルは2人1組のドリブルやチームに分かれての実戦、ハンドボールは小さなコーンを狙う投球や本格的なシュート練習など、全身運動や個と個のつながりに重きを置いた講習が行われました。

そして最後に行われたラグビーのセッションの終盤に、ラグビーワールドカップ4大会に出場し、ジャパンラグビーリーグワン2023-24シーズン優勝を果たしたばかりの東芝ブレイブルーパス東京のリーチ マイケル選手がサプライズゲストとして登場。拍手で出迎えた子どもたちと一緒にハンドリングと自分の体を触る動作を交えた遊びをはじめ、その後ボールキャリアーする小学生たちを阻むタックラー(タッチ役)を務めるなど動作が増えるとともに、リーチ選手も徐々に本気モードに。ラストは、ボールキャリアーを務めるリーチ選手を小学生38名全員が追いかけてタッチを試み、触ることができれば小学生チームの勝利となる壮大な「鬼ごっこ」が行われ、リーチ選手は日本代表のプライドを懸けてボール片手に広大な芝を全力疾走。大きなストライドで小学生チームを置き去りにして逃げ切ろうとしましたが、最後は粘り強くチェイスし続けた子どもたちにタッチされ、降参。小学生チームに軍配が上がりましたが、勝敗が決した後は笑顔とハイタッチで



リーチ マイケル選手がサプライズで登場。「ニュージーランド時代から憧れていた」という齊藤祐也とともに子どもたちとラグビーで汗を流し、交流した互いの健闘を称え合い、まさに「ノーサイド」で体験会を締めくくりました。

リーグワンの激闘を終えてから1週間足らず、日本代表の宮崎合宿に臨む直前の時期に子どもたちとの触れ合いを楽しんだリーチ選手は「(一緒に)体を動かして元気をもらいました。祐也さんがコーチをしている姿を見ていましたが、子どもに教えるのはなかなか難しいので本当に(コーチング)スキルが高いなと思いました。自分も将来はこういうことをやりたいと考えているので、今日は勉強になりました。こうしてグラスルーツのレベルからラグビーなどのスポーツに触れてもらうことが本当に大事だと思っています。この子たちは将来ラグビーファン、または選手になるかもしれないので、本当に大事な存在です。大きな相手に立ち向かう日本代表の姿を見せたいと思っています」と今回のボールパーク体験会に強い賛意を示しつつ、日本代表としての活躍を誓いました。

GSAを設立し今回の体験会開催を主導した齊藤祐也も「各競技の魅力を教えること以上に『楽しむ』とはどういうことかを伝えるのが大事でした。今回はリーチ選手にも来ていただき、サプライズがうまく行くかどうかなど緊張や不安もありましたが、今日は『楽しむ』という大前提が子どもたちに伝えられたと思っています。自分で考えて行動に移すことも非常に大事で、今後もそういうこともスポーツを通して伝えられたらいいですね。現役を引退してから10



フットサルの基本動作を学びながら楽しむ子どもたちと「岡ちゃん」の愛称で親しまれた岡村康平コーチ

ハンドボールを使って投球動作やシュートなどを楽しむ子どもたちと指導を担当した横地康介コーチ

年間、僕はずっとこうした活動を続けてきました。昨年、ある事情で施設が使えなくなり活動できなくなってしまったとき、パートナー企業のプロフィッツ社さんに『この取り組みをずっと続けていかないといけない』と活動に理解、共感していただき、僕に再び火をつけてくれました。今後もこの体験会を続けていきます」と充実の表情で今回の成果を実感しつつ、ボールパーク体験会の今後の継続的な開催を約束しました。

GSAの共同設立者で、体験会を笑顔で見守った株式会社プロフィッツの田中慎一郎代表取締役は「募集の初期段階は今日くらいの人数が集まるとは想像できていませんでした。それでもリーチ選手の協力もあってこれだけの方々に来ていただき、今は安堵しています。僕自身も中学、高校、大学とハンドボールをやってきて、スポーツを通じてチャレンジすることを覚えました。それが僕の生き方のベースになり、その経験がビジネスに活かたと感じています。我々は不動産の投資会社ですがただ投資するだけではなく、たとえば保育園のファンドを作るなど、少しでも世の中のためになればという思いで様々な試みをしてきました。こうして斉藤さんと理念、考え方を融合させることで、これからもっとおもしろいことができると思っています」と体験会を振り返りながら、今後への思いも語りました。



以前行われたかけっこ教室にも参加した松澤さん一家

参加したファミリーも「楽しさ」を実感したようです。松澤さん一家のお母さま・杏奈さんは「もともと斉藤祐也さんのかけっこ教室に参加させていたのですが、1回参加しただけで子どもたちがものすごく自信をつけて、それがラグビーを始めるきっかけになりました。今日は絶対に斉藤コーチに会いたいと思ってこうして参加できて、ラグビー以外のスポーツも学べたのでいい機会になったと思います」と笑顔で語り、ラグビーをしているという小学4年生の広空(ひろたか)くんも「サッカーとかハンドボールとかのスポーツが知れました。ラグビーが一番楽しかったので、また来たいです」と継続的な開催を楽しみにしていました。



観戦してラグビーに興味を持ったという石川さん一家

石川さんファミリーのお母さまは「初めて家族でラグビーを見て『おもしろいスポーツだな』と思っていたので、今回の体験会の募集を見て『行ってみよう』と子どもたちに言う『自分たちが観戦して応援したスポーツだから、やりたい』とものすごく意気込んでいました。そして今日初めてラグビーボールを触っていましたが、とても楽しそうでした。プロの選手と一緒に走るのは貴重な体験でしたし、公園で普段走っているときとは違って目がキラキラしていました。終わった後も『帰りたくない』と言ってまだ遊んでいます(笑)」とお子さんの成長に目を細めていました。

参加した子どもたちや保護者、関係者、そしてリーチ選手、全員が多くのものを得たボールパーク体験会。今後のさらなる発展と「卒業生」たちの将来の活躍が楽しみです。



最後はリーチ選手に花束が手渡され、参加者全員で記念撮影



指導を終えた斉藤祐也とリーチ選手。同じ志のもと今回のサプライズが実現